

# 横浜交通まちづくり協議会の UDタクシー普及への取り組み

横浜交通まちづくり協議会  
代表 松川由実



# 横浜交通まちづくり協議会とは

- \* 高齢の方、障がいを持つ方を含むすべての市民が利用しやすく、エネルギー消費や大気汚染といった環境負荷がより低い交通システムを横浜で実現することをめざしています。
- \* 公共交通活性化をすすめる団体や福祉交通に取り組む団体など、交通やまちづくりの市民団体に構成されています。

## 主な活動

- 横浜カーフリーデー（2004年～2010年）
- グリーンモビリティカフェの開催（2011年～）
- 横浜市交通政策推進協議会  
モビリティマネジメント推進部会への参加（2012年～）
- タクシー連携事業（2012年～）

# 横浜カーフリーデー実行委員会としての活動

- \* 横浜カーフリーデー実行委員会として活動を始めましたが、カーフリーデーだけではなく、まちづくりの視点から交通問題を考えるため、「横浜交通まちづくり協議会」と改め、より幅広い主体の参加を求め活動しています。

2004年 EUカーフリーデー賛同都市として日本で初めて、松本市・名古屋市とともに横浜カーフリーデーを開催

2005年 日本で初めて道路空間（日本大通り）を人と自転車に解放して「カーフリーデー」を実施

2006年 マイカーを規制してバスは通すといういわゆる「トランジットモール」を実現

2007年 伊勢佐木町1丁目から7丁目まで歩行者に開放。馬車道通りと入船通りもカーフリー協力ゾーンとして日本大通り・横浜公園からつながる広域をカーフリーゾーンとする

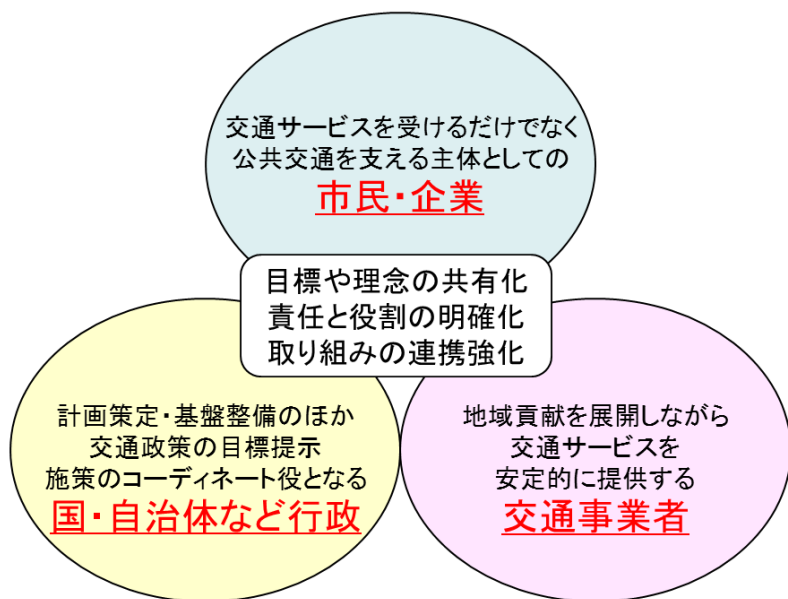
2009年 カーフリーデーに合わせて横浜市はシンポジウムを同時開催。行政との連携が始まる

2010年 バス協会との連携で、市内を走るバス10社がすべて日本大通りに集合。交通事業者との連携始まる

# 横浜市交通政策推進協議会への参加

- \* 当会及びメンバーが横浜市交通政策推進協議会の「モビリティマネジメント推進部会」、「地域交通部会」に参加しています。

## ■横浜市における交通政策推進体制（イメージ）



（横浜市資料より）

## ■横浜市交通政策推進協議会の組織体制

横浜市交通政策推進協議会(2008年7月設立)

- 学識経験者
- 市民代表
- 交通事業者(鉄道・バス・タクシー)
- 交通管理者
- 経済団体
- 行政(国・市)

### 鉄道部会

- 市内鉄軌道事業者(7者)

### バス交通部会

- 市内バス事業者(10者)、バス協会

### モビリティマネジメント推進部会

- 公共交通を応援する市民、団体

### 地域交通部会

- 多様な地域交通の担い手

# モビリティマネジメント推進部会と地域交通部会

## ＜モビリティマネジメント推進部会＞

高齢社会対応・環境負荷低減に向けて、横浜市の既存の公共交通を将来にわたって維持し、利用しやすいものにするため、過度な自動車利用からモビリティマネジメントなどにより公共交通の適切な利用へ転換させる取組について議論することを目的。部会員は団体と個人。

※部会の構成団体であるNPO法人横浜にLRTを走らせる会、暮らしフォーラムにし、横浜の公共交通活性化をめざす会は、いずれも横浜交通まちづくり協議会の会員団体。

## ＜地域交通部会＞

地域交通の担い手を中心として、高齢社会に対応した公共交通・福祉交通のあり方の検討をはじめとした横断的な取組とし、メンバーがそれぞれの取組の課題を認識し、課題の解決と新たなビジネスモデルについて議論することを目的。この部会でUDタクシー普及について取り組んでいる。横浜市の健康福祉局、道路局、子ども青少年局、都市整備局など福祉と交通の局が横断的に参加していることが画期的。

※現座長は、当会副代表で関東運輸局の地域公共交通マイスターでもあるかながわ福祉移動サービスネットワークの清水弘子理事長

# モビリティマネジメント部会における活動

- \* モビリティマネジメント部会では、利用者目線から公共交通利用促進策を提案しています。

## 第1回部会（2013年1月30日）

- 共通バスマップの作成
- 市民向け公共交通利用ガイドの作成  
⇒公共交通利用促進のためのポータルサイトの活用・作成
- 乗り継ぎ割引運賃の調査・検討
- 電車、バス等のユニバーサルデザイン化
- 不採算路線における地域住民の共助のしくみ作り
- 駅や車内のサインの充実  
⇒2016年のバスに前乗り、後ろ乗りのピクトサイン実験を実施

## 第2回部会（2013年5月29日）

- 横浜市民放送局との連携による短編番組「バスに乗ろう！」（仮称）の製作  
⇒「横浜バス散歩」として実現

# UDタクシー普及に取り組むきっかけ

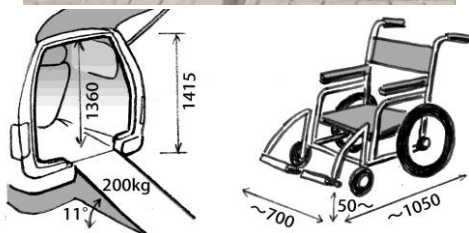
- \* 当会に福祉交通に取り組む団体が加入したこと、タクシー協会との関わりなどからUDタクシー普及に取り組みはじめました。
- ◇公共交通やまちづくり団体が多かったカーフリーデー実行委員会に、NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワークが入会したことで福祉交通（障害者や高齢者、子ども）など移動に困難を抱えている人たちの交通問題にも活動範囲が広がっていた。
- ◇神奈川県では、福祉有償運送の中間組織であるNPO法人かながわ福祉移動サービスネットワークとタクシー事業者との関係が良好で、神奈川県タクシー協会も移動困難者の交通問題に関心をもっていた。
- ◇2011年のグリーンモビリティカフェに、神奈川県タクシー協会も参加し、福祉車両の展示や今後の取り組みについて話していただいていた。
- ◇2012年8月のUDタクシーの出発式で、UDタクシー紹介を当会副代表でもあるかながわ福祉移動ネットワーク清水弘子理事長が務めた。この時にUDタクシーを紹介する動画撮影をしたことがきっかけになった。



# UDタクシーとは

- \* ユニバーサルデザインタクシーの略。
- \* 高齢者、妊産婦、子ども連れ、車いすの方(車いすのまま乗車することを想定)など、誰でも利用できる構造(ユニバーサルデザイン)のタクシー車両であって、流し営業などの通常のタクシー営業に用いるもの。
- \* 介護・福祉に特化したものではありません。

車椅子のまま乗車可能



乗り降りしやすい



ステップと手すりがついているので、子どもにも高齢者の方にも乗りやすい

大容量の荷室



セダntaxiの約2倍ゴルフバッグも4セット自転車もつめます



# 横浜市における福祉の運送に対するニーズ

- \* 公共交通を利用できない方たちの移動手段は主に福祉有償運送などが担っていますが、サービスが不足しています。

## ■横浜市における福祉運送関連車両1台あたりの対象者数

**旅客の対象 約28万人**  
要支援、要介護認定者、  
身体障害者、知的障害者、  
精神障害者など

→単身世帯化等で  
さらに増加

(1台あたり)  
=約280人

## 福祉の運送に使われる車両 約1,000台

福祉タクシー（タクシー事業者）	約1割
介護タクシー（福祉限定許可）	約3割
福祉有償運送	約6割

(横浜市交通政策推進協議会平成26年11月4日資料より)

# 横浜交通まちづくり協議会の UDタクシー普及への取り組み

\* 広報活動等によりUDタクシー普及に取り組んでいます。

## ■横浜交通まちづくり協議会のUDタクシー普及への取り組み

平成24年度	◇UDタクシー出発式の動画を作成。 ◇神奈川県タクシー協会のUDタクシーパンフレットの作成協力
平成25年度	◇UDタクシー普及のため「よこはまふれあい助成金」に応募し、独自の広報を実施 ・市内のケアマネ連絡会での説明会（9回開催） ・アンケート付チラシを作成し、地域包括支援センター等に配布。 ・UDタクシーについて紹介する動画の作成。 ・UDタクシーのミニシンポ開催
平成26年度	◇UDタクシーマップ（WEB）作成
平成27年度	◇知的障がい者にとっても利用しやすいUDタクシー動画作成（予定）

# UDタクシーに関するアンケート調査①

- \* タクシー事業者の中には、UDタクシーの需要に対する誤解があることが分かりました。

## ■UDタクシーを導入しない理由（回答数、複数回答）

1. 時期尚早である。	27
2. 売上の増加に繋がらず、車両投資が、経営上の負担となる。	33
3. 担当乗務員の選定が困難である。	21
4. 既に福祉有償輸送等が運行されているので、お客様がいない。	12
5. あまり興味がない。	3
6. その他	15

## UDタクシーに関するアンケート調査

2012年度に神奈川県タクシー協会経由で県内全タクシー事業者にUDタクシーに関するアンケート調査を実施しました。

タクシー協会加入会員数 188社 (福祉限定4社除く)

回答数 136社 (72.3%)

導入計画なし 78社

導入計画あり 58社

# UDタクシーに関するアンケート調査②

- \* UDタクシーの周知のためには、市民活動団体との連携による広報活動や移動ニーズの情報交換が求められていることが明らかになりました。

## ■UDタクシー周知のために連携すべき団体（回答数、複数回答）

1. タクシー事業者だけで、UDタクシーの周知は出来る。	9
2. 市民活動団体との連携は必要だ。	50
3. 市民活動団体との連携はすべきだが、どうしたらいいかわからない。	19
4. 自治体と連携すべきだ。	50

## ■市民活動団体との連携の内容（回答数、複数回答）

1. UDタクシーの取組みや認知度を上げる為の広報活動	44
2. 乗務員の研修等、移動の質を上げる取組み	20
3. 地域の移動ニーズの情報交換(どこにどういう移動制約者がいるのか、等)	35
4. その他	2

# UDタクシーに関するアンケート調査③

- \* 流し営業等で利用者から乗車を断られる事例があることも分かりました。

## ■流し営業等で利用者から乗車を断られる事例（回答数、複数回答）

1. 流し営業では不利との報告がある	8
2. 駅構内営業でパスされた事がある	8
3. 無線営業でご乗車を断られた事がある	7
4. 介護車両とよく間違われるとの報告が多い	5

### タクシー事業者の声

- 営業回数が、セダンより平均で2～10回程度少ない（多数）
- 流しでは、手をあげようかどうか迷っている様子
- 一人での乗車を遠慮される。



# UDタクシーを知ってもらおう ～チラシの作成・配布～

- \* チラシを作成し、地域包括支援センターやケアマネジャーの事業所に配布しました。

## チラシ 表面

### もう乗った？ みんなのタクシー 【ユニバーサルデザインタクシー\*福祉有償運送】



#### 高齢者・障がい者の外出を支える仕組みです

高齢になると一人では外出が不安になり、ちょっとした外出にも困ることがあります。「ひとりで足元やバスに乗るのが不安」「車いすのまま乗れる車があると助かる」「運転に付き添ってくれるサービスはないか?」…。こういった切実な声がよく聞かれます。移動困難者の対策は、まだまだ、周知が不足しています。

2012年から導入が始まったユニバーサルデザインタクシー(UDタクシー)は車椅子でも乗ることができるタクシーです。高齢者や障がいのある人のくらしの足を支えます。このパンフレットは横浜のみならずこの新しいタクシーについて知っていただくために、《人と環境にやさしい交通》の推進に取り組み視察交流まちづくり協議会が作成しました。これまで移動困難者の足を支えてきた福祉有償運送についてもあわせて紹介しています。

#### UDタクシー(ユニバーサルデザインタクシー)



2012年、UDタクシー導入を機に、より一層高齢・障がいのある人が活躍しやすいタクシーとして取り組みが広がっています。車イスはもちろんのこと、ベビーカーもたまたまです。また、大きな荷物も積載可能なみんなが使いやすいタクシーです。車載では「みんなのタクシー」と呼んでいます。乗務員は、高齢者や障がい者の特性についての研修を受けています。

#### 福祉有償運送(移動サービス)

要支援・介護、障がいのあつて、ひとりで外出できない方(車と介助)でサポートします。通院・通学のほかさまざまな外出に対応し、外出での介助・付き添いも行います。対象者は要支援・介護、障害者手帳を持つ人など(利用には事前の申請が必要です)。



お気軽にお問合せください!! <http://www.kanagawa-ido.net/> <http://www.kanagawa-ido.net/> TEL. 045-534-6718

## チラシ 裏面

### こんなサービスがあります

- 予約なしでも利用できる?
- 夜中でも利用できる? (24時間対応可能です)
- 車いすのまま乗車できる車を手配してほしい
- 高齢の母親。家族の代わりに運転に付き添って!
- 知的障がいのある子ども。親の代わりに子どもの通学送迎を頼めますか?

タクシー・UDタクシー

福祉有償運送

UDタクシーはじめ、子育て支援にも取り込んでいます。子どもだけの乗車もOK。車いすの乗降介助も行います。車載が必要な場合は事前にご相談下さい。料金は普通タクシー料金と同じです!

利用前にコーディネートを行い、必要な介助、対応を家族やケアマネと相談します。おでかけにも対応します。

### 利用者の声

#### UDタクシー

- 障は身体不自由のため、車イスで移動しています。UDタクシーがこれまで気軽に利用できるようになりました。車載ではUDタクシー専用料金もあって、行き帰りにも楽々です。
- 買い物や通院の際にUDタクシーを呼んでいます。車いすのまま乗れるので、とても楽になりました。
- 入居している老人ホームから自車に乗るときにUDタクシーを使いました。大きな荷物も楽に積み込んでもとても助かりました。\*\*\*海外への出張先で乗車の多い時も車は使っています。

#### 福祉有償運送

- 車での送迎だけでなく、夜中での付き添いや車庫の受け取りまでお願いしています。乗車にも運転のたびに家族やケアマネと相談して安心してご利用になりました。(約50歳代)
- 12歳の息子は自家用車でバニオンを運転することもありますが、兄弟の乗車や通院の送迎が不安定な毎日に車庫サービスをお預けしています。運転者の目が及ぶ距離で送迎してくださるので安心です。(85歳代)
- 障者施設に入居しています。月1回は通院や、親戚との外出の送迎を家族に任せようとしておりましたが、福祉有償運送サービスを利用するようになりました。系に相談して、一緒に乗り込んでくれるパートナーです。(55歳代)

### 移動に困っていること、教えてください

UDタクシーや福祉有償運送に関しての意見・ご質問もお寄せ下さい。ぜひお声かけください。お名前、ご連絡先は宛先に必ずお書きください。お名前、ご連絡先は宛先に必ずお書きください。お名前、ご連絡先は宛先に必ずお書きください。

FAX送付先 045-472-1710

〒220-0000 横浜市西区

お名前

ご住所

ご電話番号

ご用件

横浜市まちづくり推進局(https://greenmobility.jp/)は、交通の場から暮らしの場へ、よりよいまちづくりに貢献するとともに、市民生活の向上に貢献することを目的として、神奈川県UDタクシー協会と連携してのUDタクシーの普及に3年間で取り組んでおり、本パンフレットは関係団体や協議会へ配布されるほか、市民生活の場へ配布されています。



# UDタクシーを知ってもらう ～福祉関係者を対象とした学習会の開催～

- \* 神奈川県タクシー協会横浜支部との協働によりケアマネジャーや包括支援センターを対象とした学習会を開催しました。
- UDタクシーと福祉有償運送をアピール
- 会場には地元のタクシー事業者が参加し、UDタクシーの試乗なども実施
- 横浜市内で10か所、県内ではさらに10か所で開催



## 参加したタクシー事業者の声

- タクシー事業者だと単なる営業だと警戒されてしまう。
- NPOと一緒に学習会だからUDタクシーの良さを伝えやすい



# UDタクシーを引っらってもらう ～UDタクシーマップ（WEB）作成～

- \* 「どこで乗れるの？」 「どこに連絡すればいいの？」 利用者の声を聞き、神奈川県タクシー協会横浜支部と連携し、「ユニバーサルデザインタクシーMAP」を作成しました。

## ■トップページ



## ■タクシー会社について提供している情報

項目	内容
UDタクシーのサービス内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>配車エリア</li> <li>配車可能時間</li> <li>セールスポイント等</li> </ul>
住所・連絡先	<ul style="list-style-type: none"> <li>住所</li> <li>電話番号</li> <li>ホームページ</li> <li>メールアドレス</li> <li>運行会社への問合せ予約</li> </ul>
UDタクシーの台数・ドライバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>UDタクシーの導入台数</li> <li>ユニバーサルドライバー人数</li> <li>同資格者人数</li> <li>乗務員指名の対応</li> </ul>
関連サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>車椅子貸出</li> <li>チャイルドシート貸出</li> <li>空港（定額）タクシーの有無</li> <li>子育て支援タクシーの有無</li> <li>観光タクシーの有無</li> <li>その他便利タクシーの有無</li> </ul>
支払方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>クレジットカード決済端末</li> <li>電子マネー決済端末</li> <li>タクシーチケット決済</li> </ul>

エリアを選択  
↓  
UDタクシー  
導入会社を選択

<https://udtaxi.wordpress.com/>

# UDタクシーの利用実態①

- \* UDタクシーは様々な目的に利用されています。
- \* 普及が進めば、マイカーからの転換も期待できます。

## ■UDタクシーの配車指定先

配車指定先	H26.4	H27.2	合計 (11か月分、 H26.4~H27.2)
自宅	32	39	662
病院	14	15	146
高齢者施設	6	10	102
商業施設	1	5	33
区役所	0	1	7
企業	1	0	7
計注	84	164	1,301

タクシー事業者の声  
UDタクシーは福祉の  
利用だけでなく、  
ちょっとした荷物を運  
ぶのに使えるため今後  
はマイカーからの転換  
も期待できるのでは。

注) 自宅～企業は主な配車指定先を集計したものであり、これらの合計と、UD配車依頼全体の数である計とは一致しません。

(UDタクシー導入事業者(横浜市鶴見区)のデータ)

## UDタクシー利用実態②

- \* 福祉交通を担う交通サービスの特性を踏まえて、目的に応じた使い分けも必要です。

### ■福祉交通を担う交通サービスの特性

	使いやすい点	使いにくい点	備考
社会福祉協議会の福祉有償サービス	安い	週に1回しか利用できない 利用する時間が限られている 行先も限定されている	使いにくい点も多いが、一番よく利用している
介護タクシー (介護保険利用)	安い 介助付	契約しないと使えない。	
介護タクシー	介助付	高い	
UDタクシー	いつでも使える 一度利用すると登録されて安心	近くはいいが、遠くにいくと高くなる。	近くの病院に行くのに利用

UDタクシーを利用する居宅介護事業所（ケアマネジャー）からの聞き取りなどを基に作成

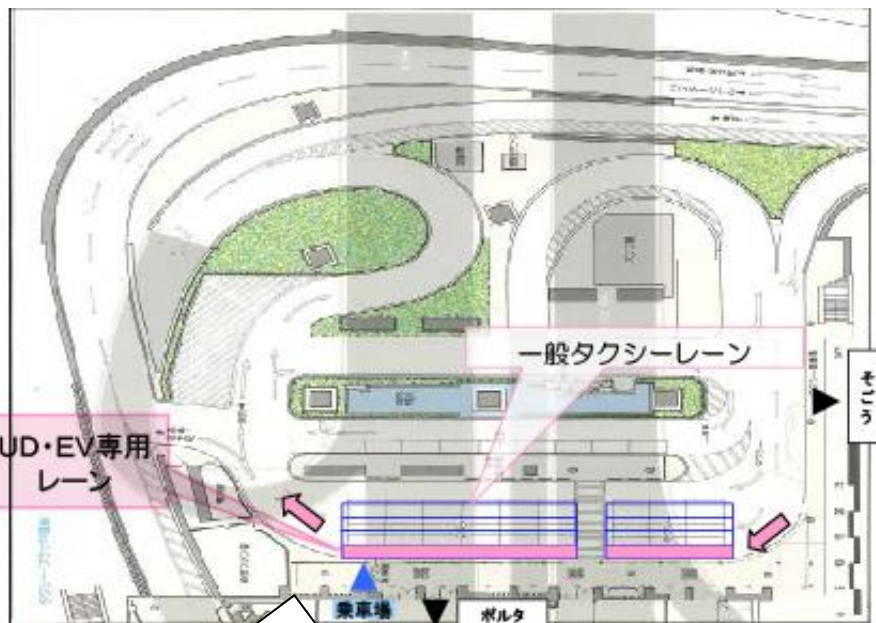
※UDタクシーは介護タクシーではないので、マンション上階から介助など乗降を介助することはできません。



# 日本初のUD・EVタクシー専用待機レーン

- \* 2013年6月28日、横浜駅東口タクシープラザに、日本初のUD・EVタクシー専用待機レーンが開設されました。このレーンが、UDタクシーの認知度を高めています。

## ■設置場所（横浜駅東口タクシープラザ）



(横浜市資料より)

一番手前のレーンをUD・EV専用レーンとし、優先配車

## ■オープニングセレモニー



セレモニーの様子は当会で動画作成しました。MCは当会副代表の清水弘子さん。



# UDタクシー利用実態③

- \* 認知が不十分な現状においても、一日約30組の車椅子ご利用者が東口より乗車されており、PRによりさらに多くの方の乗車が期待出来ます。

■ 横浜駅東口タクシー乗り場  
UD・EVタクシー専用待機レーン  
におけるタクシー稼働状況(2013年)



	7/12(金)			7/13(土)			7/14(日)		
	稼働総数	内UD	車いす	稼働総数	内UD	車いす	稼働総数	内UD	車いす
8:00~	28	0	1	20	0	0	21	0	2
9:00~	36	5	1	30	4	1	48	6	1
10:00~	44	6	3	36	4	0	46	6	0
11:00~	43	9	4	53	16	4	31	5	2
12:00~	62	12	2	67	21	3	60	10	4
13:00~	74	21	1	72	18	3	70	12	2
14:00~	80	18	3	68	16	2	68	14	2
15:00~	91	16	3	44	9	3	52	11	3
16:00~	36	17	0	81	28	1	40	8	2
17:00~	65	22	4	93	22	4	58	18	2
18:00~	68	13	2	77	16	2	69	16	3
19:00~	92	18	3	85	10	1	75	12	2
20:00~	90	14	0	63	8	0	54	8	1
21:00~	76	0	0	52	0	0	36	0	0
合計	885	171	27	841	172	24	728	126	26



# 全国のUDタクシー導入状況

- \* 横浜市のUDタクシーは順調に増えている訳ではありません。
- \* そうは言っても、神奈川県はUDタクシー導入台数全国一。

## ■横浜市のUDタクシー導入の推移

	導入数
平成24年度	61
平成25年度	16
平成26年度	5
合計	82

導入目標240台※の1/3程度  
※横浜市のタクシーの5%に相当

## ■UDタクシー導入数

県名	導入事業者	導入数
神奈川	71	155 (うち横浜82台)
東京	27	48
大阪	3	5
福岡	13	21
全国	365	690

※全国ハイヤー・タクシー連合会資料（平成27年3月31日現在）より抜粋して作成

# UDタクシー普及の課題と今後の展開

- \* これからも様々な課題を解決しながら、UDタクシー普及に取り組んでいきたいと思えます。

## 1. UDタクシーの認知度向上

◇横浜駅東口に専用レーンはできたが、一般のタクシー乗り場にUDタクシーに関する説明は一切ない。（UDタクシーを導入していない会社もあるので、導入している会社の宣伝になるため）

⇒市民団体から、一般のタクシー乗り場にUDタクシーに関する情報を提示するよう提案していきたい

## 2. 運転手の確保

◇車椅子や移動困難な人を乗車させるために時間がかかるが、料金は一般タクシーと同じ。

⇒タクシー事業者の中には、将来的にUDタクシー担当乗務員の勤務シフト、人事制度の見直しを検討しているところもある

## 3. 利用実態の調査

◇利用実態は、各タクシー事業者は持っているデータのみ。

⇒利用実態を調べて、ニーズがあることを示すことが重要